



しずくいしちょうしゃかいふくしきょうぎかい
 粟石町社会福祉協議会

編集と発行／粟石町千刈田 82-2 粟石町総合福祉センター内
 TEL：692-2230 FAX：691-1140
 e-mail：shizuku-shakyo@shisha.or.jp
 http://www.shisha.or.jp
 ホームページからもご覧になれます。

社協だより

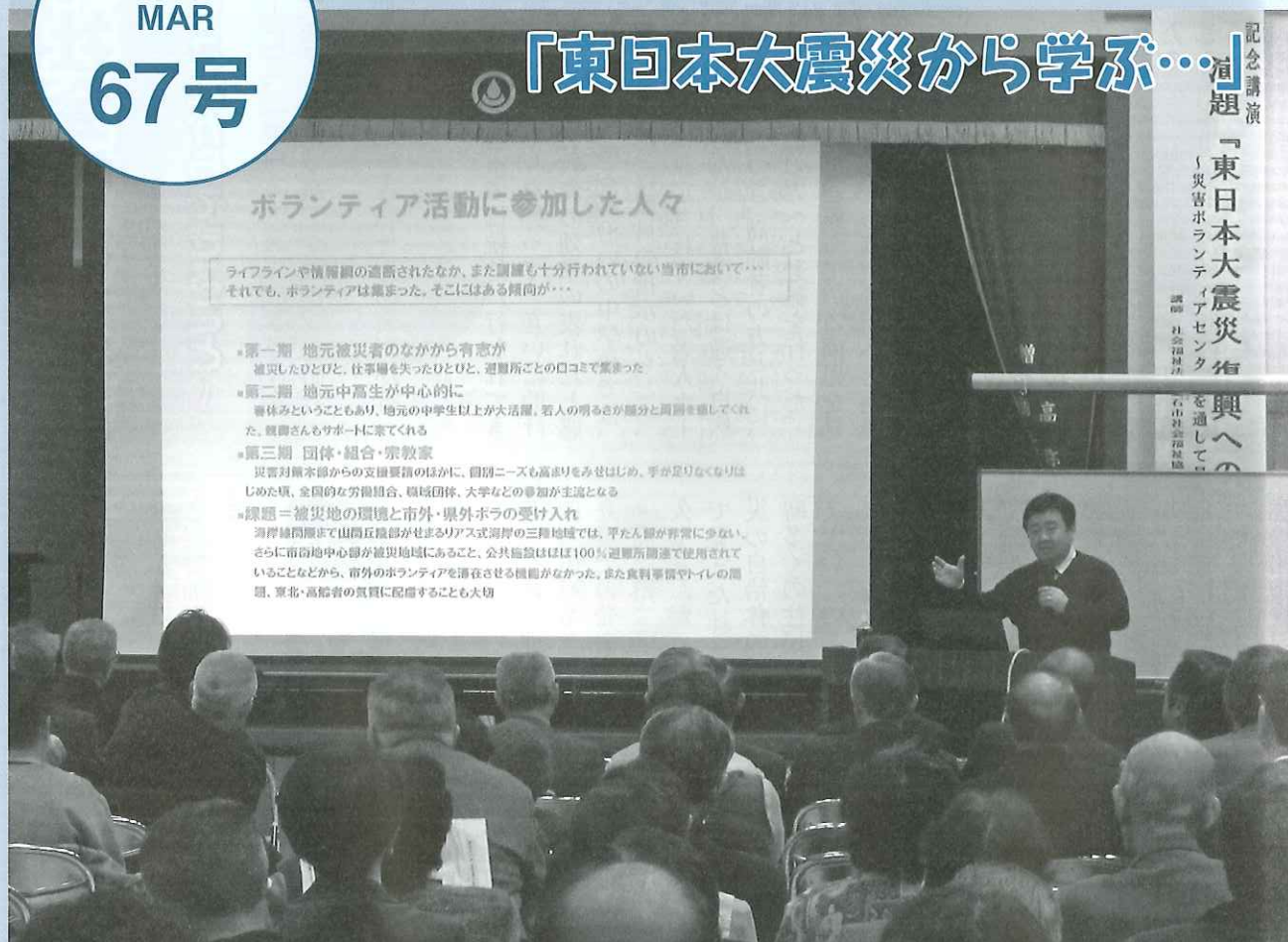
2012
 MAR

67号

基本目標：

「誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくり」

「東日本大震災から学ぶ…」



ボランティア活動に参加した人々

ライフラインや情報網の遮断されたなか、また訓練も十分行われていない当市において・・・
 それでも、ボランティアは集まった。そこにはある傾向が・・・

- 第一期 地元被災者のなかから有志が
被災したひとりと、仕事場を失ったひとりと、避難所ごとの口コミで集まった
- 第二期 地元中高生が中心に
暑休みということもあり、地元の中学生以上が大活躍。若人の明るさが随分と周囲を癒してくれた。数回さんぽサポートに来てくれる
- 第三期 団体・組合・宗教家
災害対策本部からの支援要請のほか、個別ニーズも高まりをみせはじめ、手が足りなくなりはじめた頃、全国的な労働組合、職域団体、大学などの参加が主流となる
- 課題＝被災地の環境と市外・県外ホラの受け入れ
沿岸線沿線まで山間丘陵部がせまるリアス式海岸の三陸地域では、平たん部が非常に少ない。さらに市街地中心部が被災地域にあること、公共施設はほぼ100%避難所開設で使用されていることから、市外のボランティアを滞在させる機能があった。また食料事情やトイレの問題、東北・高知者の気質に配慮することも大切

記念講演
 題目
 「東日本大震災後復興への道」
 講師
 釜石市社会福祉協議会
 釜石市社会福祉協議会

もくじ

- ◆第35回粟石町社会福祉大会 2～3P
- ◆西山保育園だよりVol.5 4～5P
- ◆平成23年度歳末助け合い募金運動報告 ... 6～7P
- ◆平成23年度粟石町地域福祉懇談会 8～9P
- ◆社協トピックス..... 10～11P
- ◆お知らせ..... 12P

表紙写真： 3月3日（土）に開催された、第35回粟石町社会福祉大会の記念講演の様子です。

釜石市社会福祉協議会の菊池亮氏を講師として招き、震災時の釜石市の状況やボランティアセンターの取り組みについて、講話をいただきました。



この社協だよりは、皆様から寄せられた社協会費の一部をあて発行しています。



本大会の最後に、「住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、住民一人一人が地域の一員として心をひとつにし、更なる研鑽を図る」ことを誓う大会宣言が提案され、満場一致で採択され、閉会しました。町社協では、今回の社会福祉大会を契機として、東日本大震災を風化させないために、被災地の方々の支援に取り組んでいきます。

～受賞おめでとうございます～



佐々木百合子 氏
(中沼)

十年十一ヶ月の長きにわたり、伊豆市福祉作業所「かし和の郷」所長として、運営支援に尽力した功績。



下川原幸夫 氏
(高前田一)

伊豆市福祉作業所「かし和の郷」の設立当初から、現在まで十四年九ヶ月の間、指導員として公私共に通所生の社会参加を導くとともに、作業所の運営に尽力した功績。

伊豆市社会福祉大会会長表彰

《社会福祉事業功労者 六名》



浦田美保子 氏
(林崎)



谷地アサ子 氏
(伊豆谷地)



櫻田 政治 氏
(駒木野)



新里 榮弘 氏
(上春木場・下春木場)

十三年の長きにわたり、伊豆市民生委員・児童委員として住民の福祉増進に努めた功績。



坂本 不子 氏
(高前田二)



柳村タツノ 氏
(駅前)



細川 圭子 氏
(長根)



上中屋敷美智子 氏
(まがき)



佐々木 幸 氏
(東町)



石塚 彰吾 氏
(下町一・二)

多年にわたり献身的な介護を行い、在宅福祉の大切さを身をもって示した功績。

伊豆市福祉大会褒賞

《在宅介護功労者 六名》

第35回 伊豆市社会福祉大会

東日本大震災に学ぶ

～今までの経験・学び～

三月三日（土）町総合福祉センターにて、「東日本大震災に学ぶ～今までの経験・学び～」をテーマに、第三十五回伊豆市社会福祉大会を開催しました。

式典では、多年にわたり、社会福祉の発展に寄与された方の表彰が行われました。

式典では、「伊豆市社会福祉大会長表彰（社会福祉事業功労者）六名」「伊豆市社会福祉大会褒賞（在宅介護功労者）六名」の方々が表彰されました。

式典終了後、社会福祉法人釜石市社会福祉協議会地域福祉係長の菊池亮氏より、『東日本大震災 復興への道しるべ』災害ボランティアセンターを通して見えてきたもの』と題し、記念講演が行われました。

記念講演

『東日本大震災によって、釜石市の様子は大きく変化した。木造建築の建物が多く、津波の被害で家屋が一部しか残らないほど変わり果てた状況に、多くの住民が不安を抱いていた。しかし、住居等の被害に比べ、人的被害は比較的少なく感じる。そ

れは、釜石市で伝統的に行われてきた「思いやりを持って、互いに助け合う」防災教育の効果の表れだと感じている。ある海沿いの中学校では、地震発生時、教職員の指示のもとで、避難場所に設定されていた老人ホームに避難したが、普段とは違う自然の変化に気づき、高齢者の方と共に、より高い山の方へと避難を行った。その途中に、避難している園児を見つけ、抱えながら高い場所へと避難した。この行動の判断は中学生自ら教師に伝え行ったもので、非常に冷静な決断であった。また、他の地区では地域住民が協力し、震災後の撤去作業が住民自らの手で進められていた。当ボランティアセンターが尋ねた所「おらたちだけで、ここまでやったぞ。」と地域の強いつながりを感じた。今までの経験・学びから、今回の震災によって、今までの味わったことのない恐怖を感じたが、同時に地元住民

のつながりの強さや復興に向かって頑張る人の強さが多くみられた。』と語り、人のつながりの大切さや今後の取り組みについて、お話しいただき、参加者全員で意思の共通を図りました。

パネルディスカッション

伊豆市ボランティア活動センター運営協議会会長の深谷詩子氏の進行で、「大震災が問いかける福祉力」それぞれの絆」というテーマの下、四名のパネラーの方々がそれぞれの立場での発表を行いました。

高前田二区行政区民生委員の中野久子さんからは、「地域コミュニティで見た絆」と題し、3・11大震災の自治体の活動として「地震発生時多くの住民が、恐怖で玄関先で震えていたのを見て、集会所に集まるよう声をかけ、町内の在宅支援センターの職員とともに、一軒一軒住民の安否確認を行った。子どもから大人まで協力して食事を作り、通電するまで不安の中で過ごした。今回の事で、多くの方々の支えを受け、人々の絆のありがたみや大切さを感じ、地域住民が寄り添い・支えあう町作りに尽力していきたい。」と発表がありました。

大槌町社会福祉協議会業務課長補佐の田山俊悦さん、大槌町復興支援

ボランティアセンターサテライトリーダー佐々木順一さんからは、「県内外のボランティアの絆」と題して、大槌町のボランティアの状況について、「大槌町では、大震災時に他県などからの生活支援やボランティアの応援を受け、町の復興・復興に力を注いだ。ボランティアの内容の一つである「写真洗浄プロジェクト」では、写真の修復が多くの住民の励みとなった。今後、河川の清掃・花植など地元で活気を取り戻せるよう、取り組んでいく。」と報告がありました。

沿岸被災者交流事業「やまなみの会」会員の石杜潤子さんより、「新天地「伊豆市」で求める絆」と題して、震災時の出来事で「震災時、家族と連絡を取ることができなく、不安でいっぱいだった。避難先の体育館より自宅へと向かうときに、ある方から一杯の味噌汁をいただいた。この恩をお返ししたい」というと、その方は、「自分の息子も、別の土地で他の人に世話になっている。恩は巡り廻るもので、恩を返すなら他の人に返して欲しい。そうすればいつかは自分の元に返ってくる。」と教えてくれた。この言葉に感動し、多くの方々よりいただいた優しさや思いやりを、多くの方々に返していきたい。」と涙ながらに体験談が話されました。

うさぎりんぐみ (0・1歳児)

「寒くたってへっちゃら！」

寒くても大好きな雪遊び！わんぱく山からそりやお尻で「シュー」と滑ったり、スコップ片手におままごと。

雪をすくったり、お皿やコップに雪を乗せて楽しんでいます。



今からそりで出発！



仲良くおままごと♪

トピックス

きりんぐみ (1・2歳児)

「上手にできたよ！」

割りばしに布を巻きつけた「たんぼ」を使ってポンポンスタンプ遊びを楽しんだり、地域のおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に水木団子作りをしました。

手のひらでコロコロ丸めて、小さくかわいい水木団子ができました。



ポンポンスタンプあそび♪



上手に丸められるかな？

ちびっこぞうぐみ (3歳児)

「鬼は外～福は内～」～豆まき会～

2月3日に豆まき会が行われました。突然の赤鬼の登場に新聞紙で作った豆を投げるどころではなく、必死で逃げていました。でも、みんなの中にいる怒りんぼ鬼や泣き虫鬼を退治することができたのではないかと思います。

福を願いながら、恵方巻きもいただきました。



赤鬼が来たー！！



キャー！怖いよー！！

ぞうぐみ (4・5歳児)

「ハッピーバレンタイン♥」 ～おやつにチョコフォンデュ～

2月14日はバレンタイン。食育活動の一環として、おやつ時間に“チョコレートフォンデュ”をしました。バナナとマシュマロにたっぷりのチョコレートをつけて口にはお張っていましたよ！

大好きなチョコレートに笑顔いっぱい楽しんでバレンタインデーとなりました。



チョコがこぼれないように…



お顔もチョコフォンデュ？

笑顔いっぱい 元気いっぱい 西山っ子

西山保育園だより vol.5

今年の冬も園庭にたくさんの雪が積もりました。雪は子どもたちにとってかっこうの遊び道具です。わんぱく山に登ってそり滑りや雪を集めてかまくら作りをして楽しみました。

この1年で様々な遊びや季節行事、経験を積み重ね、心も体もぐんと大きくなった子どもたち。もうすぐ来る進級、卒園を楽しみにしています。その気持ちに寄り添いながら、1日1日を大切に保育を進めていきたいと思っています。



足で踏んで！うどん作り

2月8日、地域の婦人会の方々に来て頂きながら、うどん作りを行いました。

生地がまとまると、ビニール袋に生地を入れて、みんなで足踏みをしました。4・5歳児は生地を伸ばしてうどん切りにも挑戦！太さも長さも様々なうどんが完成しました。

顔を粉で真っ白くしながら作ったうどん。「太いね～」「もちもちしてる」とおいしく頂きました。



みんなで足踏み…1・2、1・2…



おいしいうどんになあれ！

雪の上を駆け抜けろ！ ～雪上運動会 2012～



～そりりレー～



～雪上フラッグ！～

西山保育園冬の風物詩、雪上運動会を行いました。

小さい子が乗ったそりを、大きい子が引っ張るそりリレー。後ろを気かけながらも一生懸命そりを引っ張っていました。雪上フラッグ、帽子取りゲームの競技も行い、大きな歓声の中、白熱していました。

子どもたちの1番の楽しみは宝探し！雪の中からお菓子の宝物を見つけて大喜びでした。

***** 平成 23 年度大口募金ご寄付の方々 *****

【100,000円】

青湖苑カルチャー発表会

【30,000円】

社団医療法人篤宿温泉病院

雫石町医療団

【20,000円】

高橋医院 高橋 孝

雫石町ゲートボール協会

開成建設株式会社

在京雫石町友会

【11,156円】

雫石町立西根小学校児童会

【10,000円】

有限会社中孫商店

盛岡セイコー工業株式会社

盛岡スポーツ施設株式会社

松ぼっくり

沼田歯科クリニック

第7回すてきな作業所のチャリ

ティーバザー実行委員会

株式会社日水コン

株式会社中村建設

株式会社寿広

株式会社振興設備設計

株式会社昭と土木設計

株式会社しずくいし

株式会社興和電設

株式会社グリーンベネフィット

岩手大崎電気株式会社

岩井建設株式会社

【5,158円】

雫石町立安庭小学校児童会

【5,000円】

明北産業株式会社

ホテル加賀助

仙建工業株式会社盛岡出張所

雫石町シルバー人材センター

小岩井農牧株式会社小岩井農場

小岩井乳業株式会社小岩井工場

休暇村岩手網張温泉

株式会社リードコナン

株式会社プリンスホテル

株式会社ケーエヌ工業

株式会社イクスル

JA新しいわて雫石中央支所

【3,000円】

有限会社なかゆ食品

有限会社雫石タクシー

有限会社アース

ホテル森の風旅館

はま美容院

長栄館

株式会社渡辺設計事務所

株式会社三伸鋼機

オリジナル設計株式会社岩手事

務所

【2,000円】

株式会社富士電業社

【1,249円】

雫石町立下長山小学校児童会

***** 平成 23 年度行政区募金二千元以上ご寄付の方々 *****

【20,000円】

永昌寺 藤本達也

臨済寺 目時大堂

【15,000円】

ビッグハウス雫石店

【10,000円】

米澤美和子

はーとぽーと 雫石施設長

兼田紀美子

広養寺 平井正道

上原小児科医院

上原充郎

【5,866円】

太田 正男

【5,000円】

柳川長山荘 川口栄子

古川 幸男

葉上 好美

四ツ家正栄

伊藤 秀輝

篠村 達雅

堀合 宗甫

晴山 定雄

横手 俊一

土樋歯科医院

土樋博志

佐々木利之

HOMEエコノミクス営業所

諏訪 勉

たにふじ歯科医院

谷藤全功

【3,000円】

上川原 毅

田屋館寿雄

上澤田作実

上澤田 守

小地沢貞征

村上 次男

古館 康司

横手 義美

杉田 一雄

茅橋 聡

スナックかつぱ

廣瀬 幸男

徳田 正志

吉井 主税

高橋 洋二

篠村 五雅

深谷 詩子

林崎今朝吾

古館 謙護

斉藤 純子

細川正四郎

川口 英敏

大和 定四

中村 隆夫

藤原 和夫

八重樫 武

上野 剛

大村 悦正

澤田 実

米澤ヨシ子

細川 行輝

伊東 造二

斉藤 秀夫

藤村 正彦

中村 正

松尾 勝男

上野 宏

【2,300円】

石山 春男

佐藤 正義

横田 孝志

【2,000円】

中川真理子

下田 裕

上澤田稔雄

藤原 恒子

栃内 巖

加藤 潔

長坂ハツエ

沼田 容子

大村 直栄

杉村 俊雄

遠藤 忠実

村上あさよ

高橋 一郎

谷地アサ子

澤口 正

武田 長榮

田畑 広美

関 秋雄

上野 和民

篠村 幸一

阿部 敏

櫻田 幸男

吉村 幸福

櫻小路嗣男

徳田長四郎

細川 壽枝

高橋 勝三

高橋 金八

沼田 与惣

関 敬一

山口 淳光

藤澤 金吾

杉田 英哉

藤田 清一

生内 信郎

横手 清

畠山 康

木村 稔

木村 文一

石塚 眞明

築場 弘友

千葉 茂

山本 昭二

石塚 美通

千葉 幸作

向井 繁

小田 祥子

小田 靖子

金田 竹蔵

佐々木克美

小田 信雄

野々村恭一

佐々木賢明

五日市 泰

杉村 祐一

杉村 忠雄

吉田 勝夫

徳田 一士

田中 秀雄

中河原テル

(敬称略)

平成23年度歳末助け合い募金運動結果

報告

(内 訳)

戸別募金

大口(企業)募金

歳末助け合いチャリティーショー益金

学校募金

2,094,235円

489,000円

879,153円

17,563円

寄付金実績額 3,479,951円

(内 訳)

歳末助け合い義援金配分金

共同募金事務費

*差引残金 777,951円は平成24年度の県・町の福祉活動資金に活用させていただきます。

2,532,000円

170,000円

配分額 2,702,000円

平成23年度歳末助け合い募金配分額

(平成24年2月16日現在)

対象者項目	雫石地区	御所地区	西山地区	御明神地区	合計	金額	配分額
一人暮らし老人世帯	85	38	39	24	186	558,000	@3,000
老人世帯	1	1	1	1	4	12,000	@3,000
一人親世帯(遺児世帯含)	32	9	6	10	57	171,000	@3,000
在宅重度障害(児)者	46	17	28	24	115	345,000	@3,000
認知症老人介護世帯	10	5	6	9	30	90,000	@3,000
生活困窮世帯	52	46	30	45	173	1,038,000	@6,000×人数
生活困窮世帯	24世帯	19世帯	11世帯	17世帯	71世帯		
*災害被災世帯					38	228,000	@6,000×人数
精神障害者団体					13世帯		
福祉作業所かし和の滴						30,000	
身体障害者福祉協会						30,000	
共同募金事務費						170,000	
計						2,702,000	

差引合計(剰余金) 777,951円

*災害被災世帯……3.11大震災を受け、沿岸部より町内に移住されてきた方々のことです。

総額

3,479,951円

町民皆様の心温まるご協力

ありがとうございました。

昨年十二月一日から、全国一斉に歳末助け合い募金運動が展開され、雫石町におきましても、町民皆様の深いご理解とご協力のもと、総額三百四十七万九千九百五十一円もの募金額となりました。

皆様よりお寄せ頂いた募金は、長期間にわたり在宅で介護を必要とされる方や生活にお困りの方々等へ各地区民生委員児童委員さんを通して、十二月末にお贈りいたしました。皆様の温かい善意に心より感謝申し上げます。

平成23年度雫石町歳末助け合い募金運動行政区募金一覧

平成23年12月13日現在

行政区名	金額	昨年比較	行政区名	金額	昨年比較	行政区名	金額	昨年比較	行政区名	金額	昨年比較
高前田一区	51,800	↑	鶯宿	41,901	↑	網張	6,000	—	橋場	7,400	↓
高前田二区	25,000	↓	馬場・大村・男助	33,700	↓	盆花	3,000	—	安栖	9,300	↓
林	152,061	↑	赤滝	27,900	↑	極楽野	18,618	↑	小赤沢	4,500	—
上町一・二	103,486	↑	外樹沢	9,354	↑	五区	27,000	↑	山津田	13,000	↓
上町三	73,681	↑	榊沢	35,350	↑	六区	14,200	↑	滝沢	10,400	↓
中町一	53,500	↓	矢用	11,700	↓	七区	13,101	↓	南	13,400	↑
中町二・三	46,400	↓	片子沢	38,100	↑	八区	22,800	—	天瀬	12,868	↑
下町一・二	70,050	↑	天戸	41,000	↑	野中	24,250	↑	天川	8,700	↓
下町三	69,300	↑	安庭	29,700	↑	小松	37,800	↑	中南	9,600	↓
下町四	34,200	↑	籬野	22,189	↓	林崎	64,000	↑	中島	19,100	↓
駅前	53,100	↑	町場	5,800	↑	篠崎	18,000	↑	黒沢	17,300	↑
長根	22,100	↓	九十九沢	5,700	↓	上西根	16,600	↓	まがき	11,100	—
谷地	27,600	↑	矢櫃	6,666	↓	八丁野	17,600	↑	下春木場	13,400	↑
晴山	71,749	↑	元御所	12,000	—	西根谷地	9,500	↑	上春木場	23,674	↑
中沼	21,315	↓				上駒木野	11,900	↑	和野	16,200	↓
陽和郷	10,401	↓				駒木野	23,400	↓	横欠	22,119	↑
板橋	51,727	↑				葛根田	12,000	—	土橋	11,900	↑
七ツ森・丸谷地	83,800	↑							上和野	9,550	↓
小岩井	7,200	↓							上野沢	9,751	↓
東町	81,535	↑							岩持	7,700	↑
黒沢川	50,700	↑							谷地	13,500	↓
									下川原	8,239	↓
計	1,160,705		計	321,060		計	339,769		計	272,701	

総合計 2,094,235円

平成 23 年度雫石町地域福祉懇談会で出された
意見質問（主なもの）



○東日本大震災時の地域の取組について

雫石町の福祉について、検討されました

質問・意見	回答（回答者：町福祉課・町社協）
① 大震災直後のガソリンスタンドの長蛇の列や、スーパーの買い占めが多く見られた。不必要な買い占めに対し、行政からの指導をもっと強化してほしい。	① ガソリンスタンドにおいても、供給の目途がたたないことなどから、対処することが出来なかった。今後の課題として検討いたします。
② 災害が発生したときに避難する場所は、町で決められている場所ではなくてはならないか。	② 町地域防災計画に記載されている避難所は、規模・設備等を勘案し指定しているものであり、必ずしもそこに行かなければならないというものではありません。一時的避難場所として各地域公民館等に避難するなど状況にあった避難をお願いします。
③ 町内の防災行政無線に関して、聞き取りにくいという印象を受けた。高齢者の方々には更に聞き取ることが困難だと思う。停電の影響で電話などの通信手段が使えず、唯一の情報収集の手段だと思うので、今後の対応を検討していただきたい。	③ 風などの気象条件により、聞こえづらい、全く聞こえないなどの意見がありました。10月に、行政区、地域コミュニティ組織の役員に、個別受信機を配布するなど、課題解消に取り組みます。
④ 今回のような大きな地震が起こり、国道 46 号が機能しなくなったら、地域は物流だけでなく、けが人も取り残されてしまうことが考えられますが、何か対策はありますか。	④ 「町地域防災計画」に基づき対応いたします。なお、「町地域防災計画」については来年度見直しをする予定です。

○その他

① 社会福祉協議会で行っている「おげんき見守りシステム」について教えてください。	① 見守りシステムの番号に電話をかけていただき、音声案内に従ってボタンを押してその日の健康状態を知らせてもらいます。電話がなかった場合や「具合が悪い」など発信したときは町社協から電話や訪問をします。また、登録をしておけば家族の方にもその日の健康状態がメールで通知されます。
--	--

平成 23 年度雫石町地域福祉懇談会

昨年 10 月 17 日より雫石町内 10 か所において、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災時の地域の取り組みや震災時の課題についてを中心とした地域福祉懇談会が開催されました。今回話し合われた内容の一部を、紹介します。

1. 本年度懇談会テーマ

「みんなで地域の福祉を考えよう」
～東日本大震災時の地域の取組について～

2. 開催場所・参加人員

地区名	期日	開催場所	参加人員
橋 場	10 月 17 日	安栖公民館	12 人
大 村	10 月 18 日	伝統文化保存伝承交流センター	12 人
雫 石	10 月 19 日	総合福祉センター	55 人
上長山	10 月 24 日	構造改善センター（西山公民館）	20 人
七ツ森	11 月 9 日	東町公民館	22 人
下長山	11 月 9 日	小松公民館	25 人
西 根	11 月 10 日	駒木野公民館	21 人
御明神	11 月 10 日	地域振興センター（御明神公民館）	28 人
安 庭	11 月 11 日	健康増進センター（御所公民館）	32 人
南 畑	11 月 11 日	老人憩いの家	17 人
計		10 カ所	244 人

3. 総括

今年度の地域福祉懇談会のメインテーマは「みんなで地域の福祉を考えよう」と題し、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災時の地域の取組について各地区の皆さんと懇談を深めました。

懇談会では、それぞれの地区の震災時の対応として、地域コミュニティ組織、民生委員等の関係者が連携し、避難所の開設、要援護者の安否確認等の取組状況が報告されました。また、震災時の課題として、安否確認方法、発電機材の燃料の確保や、ガソリンの供給のあり方、防災行政無線が聞こえないなど多くの課題が挙げられました。

町社会福祉協議会と町では、挙げられた課題について、町民の皆様とともに改善に向け取り組んでまいります。

「ひとつになろう」を合い言葉に!! ～やまなみ会開催～

一月二十一日(土) 町総合福祉センターにて、栗石町に住居を移した被災者の方々の交流会が行われ、十一世帯二十二名が参加しました。今回、栗石町調理師会の小田幸作さんより「食を通して、皆さんに何か協力したい。」という言葉をいただき、料理の腕をふるっていただきました。

当日は、参加者の方々と一緒に準備を行い、ひつまやハンバーグなど、栗石産の食材を使った料理を味わい、交流を深めていきました。栗石で生活をしている方々の中には、見知らぬ土地での生活に不安を抱えている方がいます。

ます。しかし、中には近所の方々に「家で使えるものを持ってきたから、必要なものを使ってくれ。」と温かい言葉をかけられ、嬉しかったと語る参加者の方もいました。

今後も、継続的に町内観光や食事をしたいという声があり、会の名称を「ひとつになろう」という思いをこめて、栗石の「山」と沿岸の「波」から「やまなみ会」と決めました。

今後、月に一度は集まり、定期的に会を開くことに決まりました。三月は、十八日に総合福祉センターにて、お茶会を開催する予定です。

身障協通信

栗石町身体障害者福祉協会



絆を深める交流会

当協会の谷藤孝二さんが、第十九回岩手県障がい者文化芸術祭の絵画部門に「舟屋」を出品し、最優秀賞を受賞されました。

二月二十七日には、町総合福祉センターにて、ニュースポーツを通じて体力作りを行い、午後からは、岩手県芸術文化協会顧問の齋藤五郎氏を講師として招き、「ことわざ面白話」と題して、講演を開催しました。

日程は未定ですが、四月に総会を開催いたしますので、皆様の参加をお待ちしております。

照会先：町身障協事務局(櫻小路)
電話：692-4626

社協トピックス



明日からまた頑張ろう!!

～在宅介護者の集い～

二月二十四日(金) 町内在住の在宅介護者を対象に、花巻市にある大沢温泉「山水閣」にて、在宅介護者の集いが開催されました。

当日は、二十名の在宅介護者の方々が参加され、日頃の介護の疲れを癒し、楽しい時間を過ごしました。終了時に「明日からまたがんばるぞ。」と、参加者の方々が声をそろえて、介護に励むことを誓い合いました。



日頃の疲れをリフレッシュ

一人暮らし老人昼食会「鶴の会」

二月二十三日(木) 町内在住の七十五歳以上の一人暮らし高齢者を対象とした「鶴の会」が、鷺沼温泉「長栄館」にて開催されました。当日は、三十五名が参加し、お互いに交流を深め、楽しい時間を過ごしました。

食事を取りながら、会話をすすめる参加者の表情は、笑顔であふれていました。会は盛大に終了し、帰宅時の参加者は、若々しく感じられ、お互いに再会を誓っていました。

「鶴の会」の開催にあたって、参加者が楽しい時間を過ごせるように、商工会女性部「舟の会」の方々に協力していただいています。



笑顔が若さの秘訣

手をつなごう がし和の雪通信

午後の部は、会場を小岩井雪まつり会場に移し、岩手雪まつりに参加しました。昨年は、インフルエンザに感染した通所生が多く見学を断念したため、今年は全員で早めの予防に努めました。会場では、模擬店や雪像を見学し、参加者全員最後まで楽しく過ごし、充実した一日となりました。

二月十日(金) 栗石町総合福祉センターで、「栗石町手をつなぐ親の会の集い」が開催され、民生委員十名を含め、総勢四十二名が参加しました。

午前の部は同会場内で、四チームに分かれ宝運び・玉入れなどのレクリエーションを行い、親睦を深めました。この会、恒例の玉入れゲームは、相手コートに多く玉を入れたチームが勝ちとなります。参加者は、皆童心に帰し、日頃の足腰の痛みを忘れ、本気になって取り組んでいました。レクリエーションは、笑いであふれ終りました。



また、いぎましようね

冬の決戦、勝者は!! 栗石町老人クラブ対抗輪投げ大会

二月三日(金) 厳しい寒さの中、栗石町営体育館を会場に総勢五十四チーム、二百六十五名が参加し、激戦を繰り広げました。競技終了後には、優勝者の模範演技が披露され、華麗な輪さばきに会場の視線が集中し、大会終了後には、町老連主催の節分豆まき大会が行われ、会場は大いに盛り上がり、参加者は笑顔で会場を後にしました。当日の上位入賞者は次のとおりです。

- 団体の部
 - 優勝 駒木野B
 - 準優勝 八区八千代会C
 - 三位 東町松葉会A
- 個人の部
 - 優勝 大貫 和弘(八区)
 - 準優勝 山本 茂(篠崎)
 - 三位 袖林 勲(駒木野)

(敬称略)



優勝された大貫さんによる模範演技

雫石町社会福祉協議会
西山保育園
栄養士 小谷地 綾子



おいしい給食を作ります♪

新 入職員紹介

平成二十四年一月より、西山保育園の栄養士として、お世話になっております。
給食を食べた子どもたちは、「おいしい!」「苦手…」など、はっきりとした意見を聞かせてくれます。子どもたちの言葉が、私自身の成長になるのを感じています。子どもたちが笑顔で健康に過ごせるような給食を作りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

垣間見る、 春のきざし♪

～洋蘭の展示会開催～

三月三日(土) 町総合福祉センターで開催された雫石町社会福祉大会において、会場をたくさんの洋蘭が彩りました。

この洋蘭を育てたのは、町老人クラブ趣味の会「洋蘭の会」の方々と、一年かけて、素敵な蘭を咲かせてくれました。

この蘭の展示は、三月十二日(月)まで行われ、多くの方々を癒していました。



私たちが洋蘭の会です♪



場を和ませる
素敵な光景♪

社協行事予定

3月

- 10日(土) 男の料理教室
- 18日(日) 交流事業
- 22日(木) 理事会
- 23日(金) 評議員会

*事情により、変更になることもあります。予めご了承ください。

寄付金

●NPOすくいき

理事長 土橋幸男様

183,055円

●盛岡地区曹洞宗青年会一九会様

59,921円

●株式会社 寿広

代表取締役会長 菅原廣耕様

1,000,000円

(平成23年12月以降受付分)

やさしいまごころを
ありがとうございます

赤い羽根共同募金運動

昨年10月1日から12月31日の赤い羽根共同募金運動期間中では、町民皆様のご協力をいただき、誠にありがとうございました。

前号の社協だよりで募金実績を報告しましたが、募金額が確定しましたので、再度ご報告いたします。

○自動販売機設置寄付金……………5,880円

○預金利息……………101円

今回、ご協力いただいた募金を合わせて、雫石町の募金総額は、2,473,697円となりました。

町民皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。



編集 後記

今年の冬は、降雪量が多く日々の除雪に汗をながされた方も多いためではないでしょうか。今年の冬は、多くのボランティアさんに、お世話になり、大変助けられました。本当にありがたいことです。
季節も春へと移り、たくさん積もった雪も徐々に融け出しました。季節の移り変わりは、大変喜ばしいことですが、体調を崩さないよう、心がけたいものです。(春)